

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム ことぶき

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370901019		
法人名	社会福祉法人 川崎寿松会		
事業所名	グループホーム ことぶき		
所在地	〒029-0202 一関市川崎町薄衣字久伝 26		
自己評価作成日	令和7年10月15日	評価結果市町村受理日	令和8年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事は職員の手作りで、食材の匂い、調理をする音など、利用者様の五感に届くよう施設内のキッチンで作ります。利用者様にも手伝っていただいたり、後片付けも職員と一緒にいきます。誕生日の時と、月に1度、希望食を取り入れ、昔懐かしい食事やおやつなどを提供しています。野菜は、道の駅から地元産の物を多く購入しています。入居してしばらくすると、血圧や糖尿病、貧血などの薬が減薬される方が多くいます。入浴は毎日行っていて、利用者様は週に2~3回入浴できます。リフトを設置しているので、浴槽の跨ぎができない方や車椅子利用者でも入浴することができます。毎食後、口腔ケアを行っています。誤嚥性肺炎等の予防に努めています。同敷地内に、特別養護老人ホーム寿松苑、寿松苑デイサービスセンターがあるので、行事等で交流しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年11月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、川崎町の中心地区の高台にある、和風づくりの平屋建てのグループホームである。敷地内には同法人の特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ショートステイの事業所があり、殆どの利用者は同町内の方で、地域密着サービスとしての機能が十分発揮できる環境下にある。利用者9名中2名が100歳を越えるなど平均介護度が高い中で、経験豊富な資格者が多い職員により、質の高いケアサービスが提供されている。職員手作りの食事に加え、誕生日や希望食などのハレの日や郷土食の提供、食後の口腔ケアの実践など、楽しみと安心感に包まれている。また「自由」をモットーとした3本柱の理念に支えられ、起床時間や就寝時間の柔軟な対応や晩酌などの習慣が継続されている。車椅子利用者も多い中、月1回のドライブに加えたふるさと訪問の実施や日常的な外出も行われている。運営推進会議委員の拡充や訪問看護との連携を図りながら、事業所に対する地域の理解・協力を促進し、利用者家族の信頼に添えていくことが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ことぶき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の理念とグループホーム独自のモットーを廊下と事務室に掲げて意識している。	法人理念の下に利用者の「自由」を基本とする事業所の理念を定めている。起床時間や就寝時間の柔軟な対応や珈琲や晩酌などの嗜好品の尊重、やりたいことや出来ることへの支援など、全職員が生活歴を把握し、理念を念頭に利用者の思いに沿ってケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元出身の利用者は、近隣住民や友人、知人と面会したり電話をしたり交流はしている。	コロナ禍以前に開催していた、苑庭での盆踊りや子供会との交流は少子化により再開できていないが、隣接の特別養護老人ホームやデイサービスで開催されるボランティアが披露する歌や踊りの鑑賞に出かけている。毎年度、看護学生の福祉体験実習を受け入れ、今年度は2名が来所している。地域で開催されるふれあいコンサートへの参加や文化祭への出展も行っている。「川崎地域ケア会議」にも出席している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	日常的な利用者の散歩のときに、道路のごみ拾いを行っている。 川崎町の文化祭に作品を出展し、見学に行った際は地域の方々と交流をしている。 入居申し込みや相談の電話があった時など現状を聞きアドバイスや認知症についての情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	避難訓練等や日常生活の状況報告をして、意見や感想などを聞き、要望をなるべく取り入れるようにしている。	委員は、自治会長(兼老人クラブ)、民生委員、市担当者、家族となっており、毎回全家族へ通知を出し、2、3名のご家族が出席している。会議は通常の対面方式で、2ヵ月ごとに開催されている。避難訓練やそれぞれの利用者の暮らしに関する意見が出されることが多い。	こども関係や警察関係、地域包括支援センターの方などを始め、運営推進会議委員の拡充を図りながら、事業所への理解促進と運営支援体制の充実図られるよう期待します。

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ことぶき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者には運営推進会議に参加していただき、状況を報告している。電話でのやり取りもしている。	市役所川崎支所市民福祉課の職員が運営推進会議の委員として参加している。要介護認定の代行申請は、関係書類をまとめて本庁に郵送し、本庁との関係も良好である。利用料の滞納が発生した際には、一関東部地域包括支援センター、市社会福祉協議会の支援をいただき、解決している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体の組織の中に「身体拘束禁止委員会」があり、各事業所からメンバーを選出している。事故離脱、防犯の観点から玄関は施錠している。	隔月に開催される身体拘束禁止委員会には2名の職員が委員として参加している。今年度、隣接の特別養護老人ホームに「眠りスキャン」の導入が予定されており、ホームへの波及も期待される。利用者が不穏で、離脱回避のために日中も玄関の施錠をする場合もある。特別養護老人ホームでの事例発生時は、情報を共有し学びの機会としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「身体拘束禁止委員会」が中心となり毎年研修を行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度の利用の実例はないが、管理者は制度について研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時と、重要事項等の改定時には、口頭・文書にて説明を行い理解と納得をいただいている。不明点、不安なことについてはいつでもお答えするよう心がけている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム ことぶき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や、面会時、電話などご家族の要望や意見を伺っている。	年1回懇談会を開催するほか、運営推進会議にはご家族全員に通知を出し、いつでも誰でも参加出来る機会を設けている。面会や受診同行などで来所される家族からは、それぞれ個別に暮らしや面会について話されることが多い。運営に関する意見等は無く、毎月ホームから送付している日々の暮らしの写真や健康情報などへの感謝の言葉が複数寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	法人全体の職員会議、管理者・主任者会議、各種委員会等で意見を交換している。管理者は日常業務の中で、職員のサービス向上につながるアイデアや意見は日々聞いて、良いものは実践している。	職員会議(ことぶき会議)は必要時に開催している。毎日の申送りは、勤務交替毎に行われ、申し送りノートを活用し情報共有に努めている。情報交換や相談は日常的に行われ、利用者へのサービス向上に努めている。年度末には予算の範囲内での購入希望の備品等を職員間で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度を導入しており、OJT推進員委員会が中心となり、自己評価を基に直属の上司が評価をしている。労働時間については、管理者がタイムカードで労働時間を把握し、時間外労働をしないよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	「OJT推進委員会」で各事業所、各職種毎に育成システムが確立されている。新規採用職員はオリエンテーションから、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月と段階を経て育成、評価し、面談を通して不安や疑問を取り除くようにしている。働きながら実践をとおしてトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	いわて地域密着型サービス協会の研修会に参加したり、時々電話で情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	見学にいらした場合は見学時から、また入居前の面接調査でも本人の不安なところ、要望等を聞き取り、不安を取り除くようにしている。各関係者からの情報も得て不安解消につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居申し込みにいらした場合は申込時から、ご家族が直面している困りごと、今できる対応や各種サービス・制度の活用、受診の仕方等をアドバイスしている。 入居時にはその時点での不安や要望を聞き、不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面接調査や各関係者からの情報を基に、初回サービス計画書を作成し支援を行うが、利用者の様子を見ながら臨機応変に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人のできる範囲での仕事を用意し職員と一緒に「私も役に立っている」という気持ちを日々の生活の中で持ち続けていただくよう工夫している。職員はその都度感謝の気持ちをつたえるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	感染症の流行状況により面会制限をすることもありますが、定期受診は家族に付き添いをお願いしている。 面会制限がないときは、個人の居室で面会をしていただいている。 贈り物が届いた時のお礼の電話を介助している。 利用者の訴えがあった時や、不穏時等は電話や面会を依頼する場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	幼馴染や友人、同級生などの面会ができている。自宅近隣の方の面会もできている。	新型コロナの5類移行後、家族の面会に加え、近隣の方や友人、同級生などの馴染みの方との交流が復活している。また、定期的に来所する理美容師や月1回来所する訪問診療の主治医も馴染みとなっている。月1回出かけるドライブの際は、ふるさと訪問として、自宅周辺の散策も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	認知症の度合いや聴力の関係でコミュニケーションの取り方が違うので、席の配置等を配慮している。コミュニケーションが取りづらい利用者には職員が仲介している。お互い、名前はわからないが顔なじみになり、なじみの関係が築けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了の場合は、家族や各関係者と連絡を取り情報提供を行っている。終了後に介護保険手続きを代行する場合もある。隣接する特養に入所した場合は、様子を見に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	起床や就寝時間、晩酌等、個人の習慣に合わせて支援している。 居室担当職員を決め、本人の希望する買い物や、衣替えなどを行っている。 誕生日の他、月に1度希望食を取り入れ、本人の希望する食事を作っている。	意思疎通が難しい難聴の方には意向内容を「筆談」で確認し合い思い違いの無いように心がけている。理念に掲げる「利用者の自由」を最大限に尊重し、日々の支援の中で確認された「新しい思いや意向の情報」は、申し送りノートに記載し全職員で共有し取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の面接調査で生活歴をまとめ、全職員が把握して支援している。 また、入居後に得られた情報は申し送りノートやミーティングで情報を共有している。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム ことぶき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の申し送りや、申し送りノートで毎日確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日行っているミーティングや申し送りノートで情報を共有している。 期間の終盤にモニタリングを行い、ご家族からも希望を聞いている。細かい改善は日々行っているが現状に即した計画になるよう職員で話し合いを持っている。	入居当初作成した暫定介護計画は、概ね3ヶ月で見直し、その後は状態変化の都度介護計画を見直し変更している。状態が落ち着いた利用者の介護計画は半年から1年の期間で見直しをしている。いつもと違うエピソードや表情は、個別記録や申し送りノートへの記録を徹底し全職員で共有・実践しており、カンファレンスにも役立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録は記録用ソフト使い入力している。いつもと違うエピソードや表情は個別に入力している。 入力された記録は介護計画に反映されるものもある。その他、細かい事項は申し送りノートに記入し始業前に確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族が遠方にいる場合、受診、薬受けの対応をしている。 訪問診療の対応をしている。 訪問理容や移動図書も利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	慰問ボランティア、社協主催のふれあいコンサート、移動図書、訪問診療等を利用している。 食材は、地域の野菜を出している道の駅や、近所のスーパーから購入している。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム ことぶき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期受診については、入居前からのかかりつけ医を継続して受診していただく。バイタル一覧表を持参される家族もいる。状態の変化があった時や相談したいことがある場合は職員も同行する。訪問診療を利用する場合は、施設職員が対応している。	入居前のかかりつけ医に継続通院している。受診同行は家族に協力をお願いし、状態の変化や薬の相談がある場合には、家族と職員と一緒に同行している。現時点では、訪問診療を利用している利用者は4名で、歯科診療は、歯科医が隣接の特別養護老人ホームに来所した際に相談のうえで、受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護とは連携していない。同法人内の他事業所の看護職員に相談や処置を依頼することがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には職員が同行し、病棟看護師に申し送りしている。また一関市医療と介護の連携マニュアルの中の「くらしのシート」「退院シート」を活用し情報提供している。必要時、電話等で情報交換している。病院の支援室の職員とも連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、ご家族に重度化した場合の意向を確認している。看護職員がいない職員体制での重度化対応(看取り対応)は難しいが、癌患者や認知症の重度化で介護度が高い利用者、介護量が多い利用者にも対応をしている。緩和ケア病棟や特養への入居申し込み等、適宜ご家族と相談しながら対応している。	事業所として看取り対応はしない方針である。介護度3以上になった場合には、隣接の特別養護老人ホームへの入所手続きなどについて説明している。入所まで時間がかかることや重度化した際の対応も見据えて、法人内の看取り研修に積極的に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人全体で定期的に、普通救命講習会を実施し、グループホーム職員も参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年、年1回の総合防災訓練(夜間想定)には地域の方々にも参加していただき協力体制が築かれている。 水害想定避難訓練は、市や小学校と協力し、実際に小学校体育館まで避難する訓練を行っている。 火災、地震想定訓練は適宜行っている。	指定避難所は、地域内の小学校の体育館となっているが、利用者全員が「認知症を患っている」「環境の変化に弱い」「冷暖房やトイレなどのハードの課題」などを考慮し、避難先を他の施設へ変更することを検討している。今後も、引き続き市役所に避難先の変更について要望していきたいとしている。	避難先は、冷暖房完備でトイレやお風呂もあり、何より利用者の特性と環境変化などの負荷を回避することが出来ることが望ましいものと思われま す。これらのことを踏まえつつ、事業所内で協議を重ねたうえで、運営推進会議の意見も得ながら、指定避難場所の変更について、市に継続要望することを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人が理解できる言葉でわかりやすく声かけをするよう心掛けているが、理解できないときや聞こえにくい利用者には筆談やジェスチャー等で伝えている。 プライバシーに関わる話しをするときは場所を選んだり、筆談をする等配慮している。	理念に「個々の人格の尊重」と「プライバシーの配慮」を掲げている。利用者への声かけは、名前に「さん付」で行い、全員が女性職員であるため、男性利用者には異性介助等の説明し、了解を得たうえで支援している。また、利用者の出来ることやしたいことを尊重し、利用者一人ひとりに寄り添いながら、希望に応えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	わかりやすい短い言葉で、食べたいもの、テレビ番組、入浴の順番、着たい服等、選べるものは本人に自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務が優先されることもあるが、起床時間、休む時間、一人で過ごしたい等なるべく個人の希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った服装をできない利用者もいるので適切な衣類を着ることができるよう支援している。 髭剃りや整髪が不十分な利用者には介助している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ことぶき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昔ながらの献立、行事に合わせた食事、誕生日の希望食等、職員が作り提供している。 能力に応じ、食器洗い、食器拭き等職員と一緒にやっている。	職員が交代で1週間分の献立をたて毎日の食事でも手作りで提供している。敬老会やクリスマス会等の行事食は年間スケジュールで予め計画され、誕生者の食べたいメニュー(ウナギやお寿司)にも対応している。有料喫茶では、隣接施設から提供される毎月のケーキセットやお団子セットなどを職員と一緒に楽しみながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスが取れるよう工夫して職員が献立を作成している。特養の管理栄養士にアドバイスをもらっている。 カロリー制限、水分制限のある利用者は医師の指示通り提供している。 咀嚼、嚥下機能が低下している利用者にはミキサー食やトロミ食を提供している。 水分は個々に応じ、1日1000~1500cc摂取できるよう様々な飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、義歯ブラッシング、歯みがき、舌みがき、うがいをしている。できない利用者には介助している。マウスウォッシュを利用している利用者もいる。毎夕食後は、義歯ブラッシング後、ポリドントに浸して洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄時間、排泄量をチェックして記録している。 排泄パターンを把握し、事前に声かけやトイレ誘導をして失敗を減らしている。	重度化や高齢に伴い、全員がリハビリパンツを使用しているが、日中は全員がトイレ誘導で排泄が出来る。夜間に居室でポータブルトイレを利用している利用者は1名、オムツ利用者が3名である。入居直後から記録を取り試行錯誤しながら、2、3か月でトイレ排泄が出来るように改善した利用者もいる。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ことぶき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェックをして、個々のペースで排便がないときにはそれぞれに処方されている下剤で対応し排便コントロールをしている。 食事で提供するヨーグルトや野菜、根菜、水分摂取量等、工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴は毎日実施している。利用者は1週間に2~3回入浴できている。本人の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。 歩行が困難な方でもリフトを使い浴槽に入ることができる。	歩行可能な方は週3回、リフト利用者は2人介助で週2回程度午後に入浴している。浴室の隣にトイレがあり、嫌がる利用者にはトイレ誘導をしながら上手に脱衣所に誘い入浴出来ている。菖蒲湯や柚子湯で季節を感じ、重度の方も複数介助で安心して湯船に入ってもらい、湯上り後気分良く過ごしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	食後に休む方、休まない方、昼寝をする方、しない方を把握し、声をかけている。 体調や疲労度等を観察し横になって休むよう声をかけることもある。 天気の良い日は日向ぼっこをして日光に当たったり、午後はなるべく起きて体操に参加していたく等、夜の安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居時に何を服用しているかを確認し、判定会議で資料として提示しているため職員は理解している。 受診時に、毎回、処方内容を確認し、薬の変更があった場合にはケース記録と申し送りノートに記載し情報を共有している。薬に変更があった場合、必要に応じ医師にその後の状況を報告している。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム ことぶき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物たたみ、洗濯物干し、食器拭き、調理の手伝い等利用者ができる範囲での仕事を用意して張り合いが持てるよう支援している。 移動図書を楽しみにしている利用者には、図書館の方へのリクエストの代行、図書館の方と直接話せるよう橋渡しをしている。 天気の良い日は日光浴やドライブ、寿松苑との交流もしている。 コーヒー好きの方には毎日コーヒーを、晩酌の習慣があった方には晩酌もしていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日はなるべく外に出られるよう支援している。猛暑の夏でも、利用者は外に出たいと希望されたので、短時間の散歩などもした。自宅にドライブや、地域の行事に参加などもしている。 一関バルーンフェスタには、現地スタッフの協力も得てバルーンのパスケットに乗せていただいたりした。	春から秋には、デイサービスの車を利用し毎月全員でドライブに出かけ、自宅周辺へのふるさと訪問も併せて実施している。普段は、事業所周辺の散歩コースを歩いたり、車椅子利用者も外に出て日向ぼっこをしたり、町内を眺めたりしている。頻繁に外を出歩く猫がやってくる、利用者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の了解のもと自分でお金を持っていることもできるが、現在いる利用者は全員、職員(家族)管理となっている。家族や居室担当者が本人の希望する物を買ってくることが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話はいつでもかけられる。介助が必要な方には職員が仲介している。地域の知人友人から電話がかかってくる方もいる。個人で携帯電話を持っていて自由に使っている方もいる。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム ことぶき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂の壁や内戸には季節ごとの装飾をしており、廊下には日常生活のスナップ写真をプリントして飾っている。利用者の中にはその写真を楽しみしていて、良い写真に賞をつけてくれる方もいる。 日光の差し具合で内戸や障子を開閉し、テレビの後ろは暗幕を引いて見やすくしている。温度、湿度は24時間で8回チェックしており、エアコンや暖房器具などで温度調整している。	和風の木の風合いを活かしたロビーは、キッチンの隣にあり、天井も高く広いスペースでゆったりとしている。ソファ用のテーブルには低い座机が置かれ、利用者が自由にのんびり過ごせる空間になっている。居室側廊下の死角確認のためにカーブミラーが設置され、安全確保にも努めている。ベランダには、来春にも使う夏野菜用のプランターが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂の自分の席の他にソファや椅子を用意して一人になったり、仲の良い利用者と隣り合って座るなどできるようにしている。ソファではテレビを見ながら居眠りをしている利用者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に使い慣れた家具やテレビを持ち込み新しい環境でもなじむよう配慮している。家族の位牌や遺影を居室に置いている方もいる。家族からのプレゼントや写真、自分で塗った塗り絵などを飾り心地よく過ごすことができるよう工夫している。	居室にはエアコンやベッド、洗面台が備え付けられ、収納量の多い押入もある。妻の位牌と遺影を持参したり、家族写真をベッド側に沢山飾ったり、衣装収納ケースや馴染みの時計、大船渡線開業100周年の記念新聞記事を壁に貼りつけている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室入り口には本人の名前を表示し、自分で名前を確認して出入りしている。わからない利用者には付き添い介助している。共用のトイレやお風呂場には大きく「便所」「風呂場」と表示し、理解できる利用者は一人で行くことができる。食堂とキッチンが壁なくつながっているため、自分で飲み終えたカップや食器を下げられる利用者もいる。		